

「くものいと」(関西クモ研究会機関誌), No.32, pp. 23-25 (2002年) から一部改変して転載.

クモの同定の手引き

ワシグモ科 Gnaphosidae (その5)

加村 隆英

ツヤグモ属 *Micaria*

ワシグモ科のクモは一般に、出糸突起が円筒状で、その前対が広く離れていることを特徴とします(図1)。しかし、ツヤグモ属では他の多くのクモと同様に、出糸突起前対が接近しています(図2)。全体の姿もワシグモ科の他属とは、かなり異なって見えます。むしろ、ネコグモ科のウラシマグモ類と似ていると感じるかも知れません。もっとも、ウラシマグモ類では、第1,2脚の脛節、蹠節の腹面に対をなす長い刺が目立ちます(脛節に4対以上、蹠節に2対以上)。したがって、そのような多数の刺がなければ、ツヤグモの仲間と考えることができます。

この属のクモはその名のとおり、生きている時や新鮮な標本では、きらきら光って見えます。これは体全体に平たい鱗状の毛が生えているためです。

腹部には白い斑紋があり、そのパターンによってある程度、種の見当をつけることもできますが、標本によっては斑紋が不明瞭なことも多いので、正確な同定のためには、やはり外雌器や雄の触肢を見なければなりません。日本産として4種が知られています。

ヒゲナガツヤグモ *Micaria dives* (Lucas 1846) (図3-8)

体長は♀ 2.5~4.0 mm, ♂ 2.0~3.5 mm。旧北亜区に分布しており、国内では本州で採集されていますが、記録はあまり多くありません。雄の触肢が長いことが大きな特徴です。

ヤマトツヤグモ *Micaria japonica* Hayashi 1985 (図9-12)

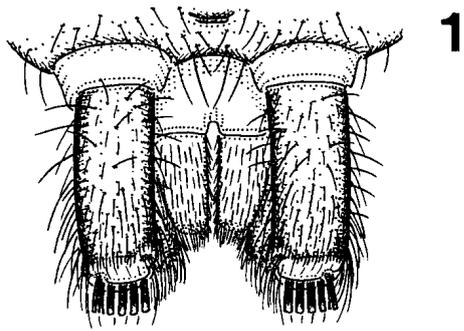
体長は♀ 3.0~4.3 mm, ♂ 2.4~3.8 mm。日本で記載された種で、北海道と本州中部以北に分布します。韓国からも記録されています。

チビツヤグモ *Micaria pulicaria* (Sundevall 1831) (図13-16)

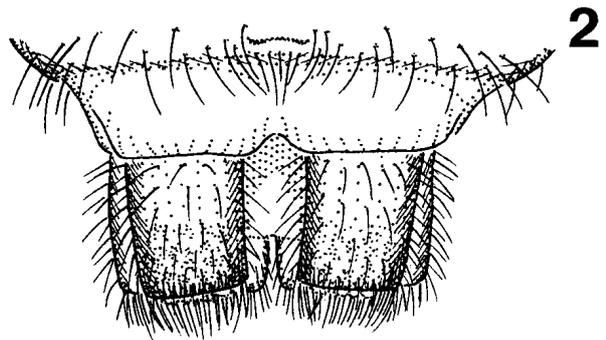
体長は♀ 2.7~4.5 mm, ♂ 3.0~3.5 mm。全北区に広く分布しています。国内の分布は北海道。「チビ」という和名がついていますが、他種に比べて特に小さいわけではありません。

タカネツヤグモ *Micaria alpina* L.Koch 1872 (図17-20)

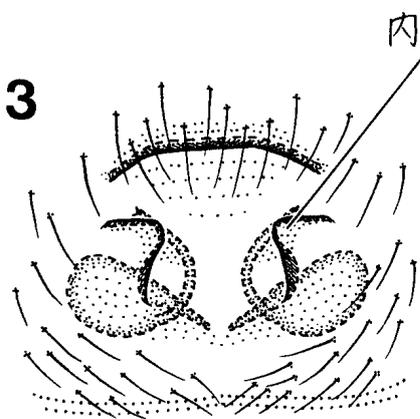
体長は♀ 2.7~4.2 mm, ♂ 2.7~4.0 mm。全北区に分布し、国内では今のところ、北海道の大雪山でのみ採集されています。



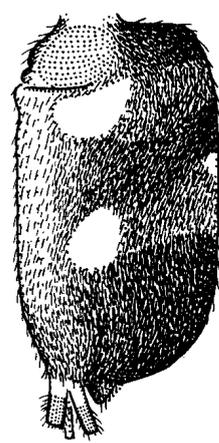
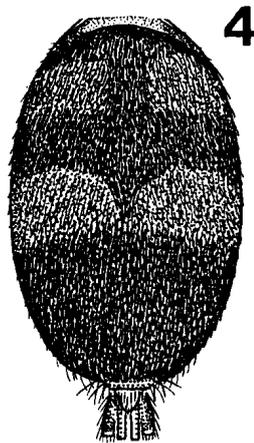
ツヤグモ属を除くワシグモ科の
出糸突起 (腹面)



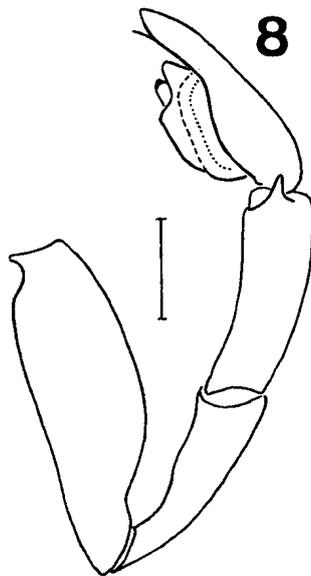
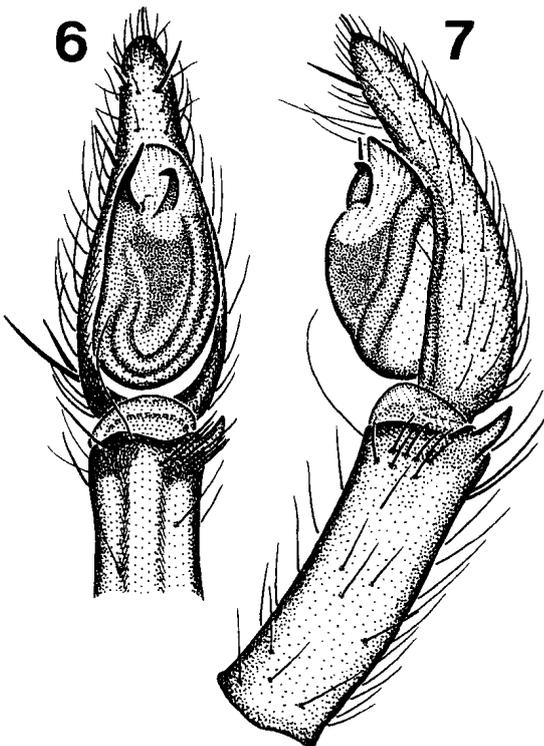
ツヤグモ属の出糸突起 (腹面)



内側に向く突起

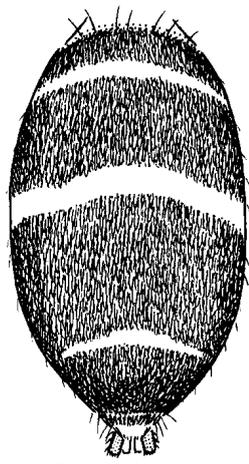


腹部側面に白斑



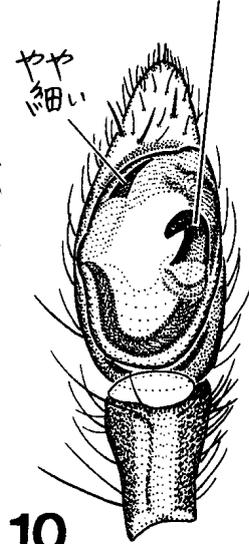
触肢の膝節と
脛節が長い

ヒゲナガツヤグモ

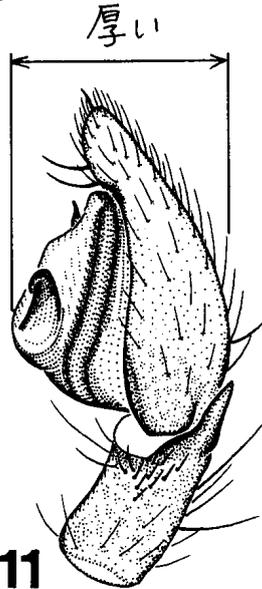


9

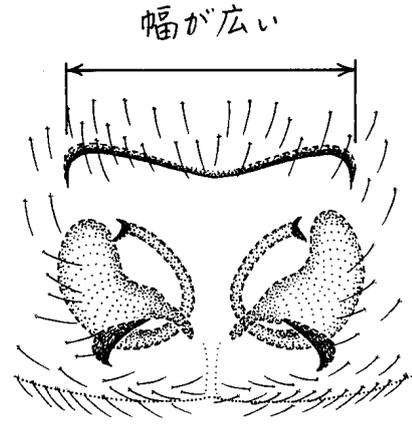
この突起が右に寄る



10

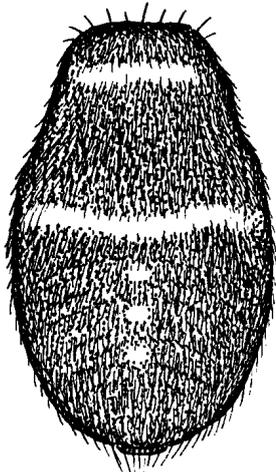


11



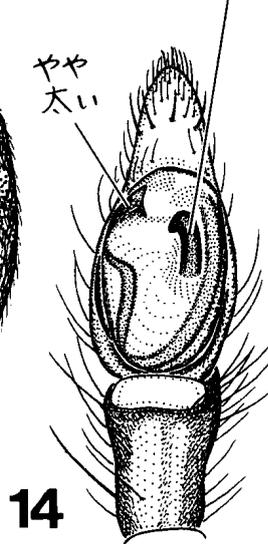
12

ヤマトツヤグモ



13

右に寄る



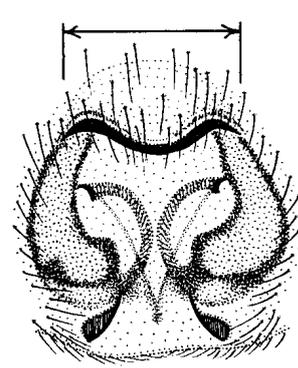
14

あまり厚くない



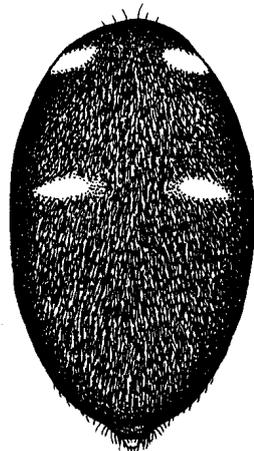
15

あまり広くない



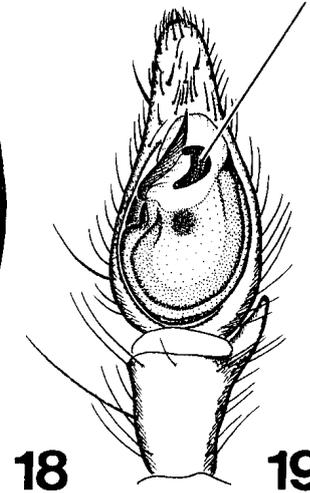
16

チビツヤグモ



17

先端寄りのほぼ中央

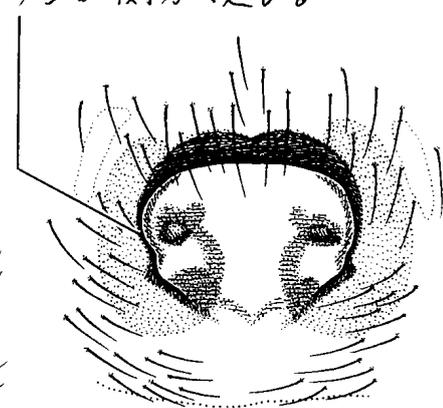


18

リッジが側方へ延びる



19



20

タカネツヤグモ